肺アスペルギルス症の治療のため手術を受けられた患者さんへ

福岡東医療センター呼吸器外科では以下の研究を実施しています。

この研究は、過去の診療情報を振り返り解析する「後ろ向き観察研究」と呼ばれる学術活動です。過去に実施された検査の結果等の診療情報等を利用しますので、患者さんに新たにご負担いただく検査や治療はありません。また、学術論文や学会で公表する場合も、個人情報の保護には十分配慮し、第三者には誰のものか一切わからないようにします。

患者さんにはご自身の診療情報が使用されることを拒否する権利があります。本研究の対象に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に使用されることを希望されない場合は下記の問い合わせ先にご連絡ください。既に学会や論文発表が行われている場合はデータを削除できない場合がありますのでご了承ください。なお、研究協力を拒否された場合でも、患者さんが診療上で不利益を被ることはありません。

【研究課題名】	肺アスペルギルス症に対する手術の現状
【研究実施期間】	2024 年 5 月 31 日～2027 年 12 月 31 日
【研究実施期間・研究責任者】	独立行政法人国立病院機構 福岡東医療センター 呼吸器外科 研究責任者　濵武　大輔
【対象となる方】	2013 年 1 月 1 日から 2022 年 12 月 31 日に呼吸器外科で肺アスペルギルス症の治療のため入院し手術を受けられた方 14 例
【研究の意義、目的、方法】	肺アスペルギルス症は抗真菌薬による内科的治療に抵抗することが多い肺真菌疾患で、特に空洞性病変を有するものや空洞内に菌球を形成する肺アスペルギローマ症例は血痰や喀血を伴う難治例が多いため外科的治療での対応が必要となる。今回、当院で 2013 年 1 月～2022 年 12 月の 10 年間に 14 例の肺アスペルギルス症に対して手術を施行しており、その結果を報告する。手術を必要とした症例の主訴、年齢、性別、喫煙歴、既往歴などを入院記録から抽出して実際に施行された手術内容(術式)、手術時間、術中出血量、術後合併症などを検討する。長期的な経過観察期間を設け予後や再燃例も確認する。予後の調査のため他院で収集した情報も利用する。検討結果から今後のアスペルギルス症例の実臨床に反映していきたい。

【利用する情報の種類】	肺アスペルギルス症の手術例に対する診療記録、臨床検査データ（血液、病理検査結果）、診断用画像（胸部 CT、胸写）、手術時に作成された病理組織標本：切除肺（肺全摘、肺葉切除、区域切除、部分切除）の病変部位および正常部位。 予後の調査のため他院で収集した情報も利用する。
【個人情報の保護】	研究に際して個人が特定されないように、個人が特定できる情報は全て削除します。
【問い合わせ先】	独立行政法人 国立病院機構 福岡東医療センター 研究責任者： 呼吸器外科　濵武　大輔 住所：〒811-3195 福岡県古賀市千鳥 1-1-1 電話番号：092-943-2331 （代表）